

横查情報月報



2014
5014
6月
9日

横浜市衛生研究所

平成26年6月号 目次

【トピックス】

食品中の放射性物質検査結果	1
平成25年度 家庭用品検査結果	3

【感染症発生動向調査】

感染症発生動向調査委員会報告 平成26年5月	5
------------------------------	---

【情報提供】

衛生研究所WEBページ情報(平成26年5月分)	9
-------------------------------	---

食品中の放射性物質検査結果

平成23年3月に、東日本大震災による福島第一原子力発電所事故がおき、食品中の放射性物質検査が急務となりました。そこで、横浜市衛生研究所においてもガンマ線核種分析装置を導入し、平成23年7月より検査を開始しました。

平成25年4月から平成26年3月までに当所に搬入された食品の検査結果は表1、表2のとおりでした。検査の結果、放射性セシウム(Cs-134、Cs-137)が基準値を超えた検体はありませんでした。

表1 検体の種類

検体の種類	説明	検体数	検出検体数
市内産農産物	横浜市内産の農産物	47	10
市内産水産物	横浜市内漁港水揚げの魚介類	96	2
市内産畜産物	横浜市内産の原乳	12	0
インターネット通販	インターネット上で流通している食品	40	16
小学校給食	主食のパン・米類及び牛乳など乳類	396	0
保育園給食	提供された1人分の給食について	24	4
まるごと累積線量調査	H25.8.5まで原則1週間分ごとに検査		
合計		615	32

表2 検査結果

検体の種類	検査検体名 []内は検体数	検出検体名 []内は検出検体数	結果 Cs-134、 Cs-137合計値 (Bq/kg)	
市内産農産物	いちご[1]、うど[1]、うめ[1]、えだまめ[1]、かき[1]、かぶの根[1]、カリフラワー[2]、かんしょ[1]、キウイ[1]、キャベツ[2]、きゅうり[1]、くり[1]、ごぼう[1]、こまつな[2]、小麦[1]、さといも[1]、しいたけ(生)[2]、しいたけ(乾燥)[3]、しゅんぎく[1]、だいこんの根[1]、たかな[1]、たけのこ[1]、たまねぎ[1]、とうもろこし[1]、トマト[2]、なす[1]、にがうり[1]、日本なし[1]、にんじん[1]、ねぎ[1]、はくさい[1]、ばれいしょ[1]、ぶどう[1]、ブルーベリー[1]、ブロッコリー[2]、ほうれんそう[1]、みかん[1]、未成熟いんげん[1]、リーフレタス[1]	かき[1] かんしょ[1] くり[1] しいたけ(生)[2] しいたけ(乾燥)[3] たけのこ[1] みかん[1]	0.58 1.4 6.3 6.3、8.0 12、15、17 12 0.71	
	アカカマス[6]、アカシタビラメ[1]、イシガレイ[1]、イボダイ[3]、ウミタナゴ[3]、カナガシラ[2]、カワハギ[1]、キチヌ(キビレ)[1]、クロダイ[5]、コウイカ[1]、コショウダイ[4]、コノシロ[1]、ゴマサバ[5]、コンブ[1]、シリヤケイカ[5]、シロギス[1]、シログチ[7]、ジンドウイカ[5]、スルメイカ[1]、タチウオ[2]、チダイ[1]、テナガダコ[1]、ヒラメ[6]、ホウボウ[4]、マアジ[1]、マアナゴ[4]、マコガレイ[7]、マゴチ[3]、マサバ[2]、マルアジ[6]、ムシガレイ[1]、メイタガレイ[3]、メジナ[1]	クロダイ[1] マゴチ[1]	2.9 6.7	
	市内産水産物			
	市内産畜産物	原乳[12]	—	—

表2 検査結果(つづき)

検体の種類	検査検体名 []内は検体数	検出検体名 []内は検出検体数	結果 Cs-134、 Cs-137合計値 (Bq/kg)
インターネット 通販	いなご甘露煮[1]、猪肉[1]、うどん(塩蔵品)[1]、梅干[1]、おうとう[1]、 おかひじき[1]、きくらげ[1]、牛乳[5]、熊肉[1]、凍り豆腐[1]、米[1]、 こんにやく粉[1]、しいたけ[3]、自然薯[1]、そばの実[1]、大豆[1]、 たもぎ茸[1]、ドライ納豆[1]、ドレッシング[1]、梨ジャム[1]、乳児用 だし醤油[1]、蜂蜜[1]、発酵乳[1]、葉わさび[1]、ぶどうジュース[1]、 ぶなはり茸(塩蔵品)[1]、味噌[2]、目光から揚げ[1]、もも果汁入り 飲料[1]、もも酒[1]、ももジュース[1]、よもぎ[1]、わらび(塩蔵品)[1]	猪肉[1]	5.1
		梅干[1]	0.60
		熊肉[1]	3.0
		米[1]	1.0
		しいたけ[2]	7.7、71
		そばの実[1]	2.8
		たもぎ茸[1]	4.2
		ドライ納豆[1]	2.2
		ドレッシング[1]	6.1
		蜂蜜[1]	2.2
		葉わさび[1]	4.7
		目光から揚げ[1]	8.6
		もも果汁入り飲料[1]	5.6
		ももジュース[1]	5.8
よもぎ[1]	2.0		
小学校給食	牛乳[173]、米[81]、胚芽米[31]、パン[68]、麦[37]、もち米[1] ブルーン発酵乳[5]	—	—
保育園給食 まるごと累積線量 調査	提供給食[24]	提供給食[4]	0.0761～0.0982

【 検査研究課 微量汚染物担当 】

表2 家庭用品検査項目および規格基準

検査項目	用途	検査対象	規格基準
ホルムアルデヒド	樹脂加工剤、 防菌防カビ剤	2歳以下の乳幼児用繊維製品	吸光度差が0.05以下または 16µg/g以下
		乳幼児用以外の繊維製品、 かつら等接着剤	75µg/g以下
有機水銀化合物	防菌防カビ剤	家庭用塗料、靴墨、靴クリーム、 ワックス、繊維製品、家庭用接着剤	検出しないこと
トリフェニル錫化合物	防菌防カビ剤	家庭用塗料、靴墨、靴クリーム、 ワックス、繊維製品、家庭用接着剤	検出しないこと
トリブチル錫化合物	防菌防カビ剤	家庭用塗料、靴墨、靴クリーム、 ワックス、繊維製品、家庭用接着剤	検出しないこと
ディルドリン	防虫加工剤	繊維製品	30µg/g以下
TDBPP*1	防炎加工剤	繊維製品	検出しないこと
BDBPP*2	防炎加工剤	繊維製品	検出しないこと
DTTB*3	防虫加工剤	繊維製品	30µg/g以下
メタノール	溶剤	家庭用エアゾル製品	5%以下
テトラクロロエチレン	溶剤、汚れ落とし、 シミ取り	家庭用エアゾル製品 家庭用洗剤	0.1%以下
トリクロロエチレン	溶剤、汚れ落とし、 シミ取り	家庭用エアゾル製品 家庭用洗剤	0.1%以下
塩化水素 硫酸	洗剤	住宅用洗剤	10%以下
水酸化ナトリウム 水酸化カリウム	洗剤	家庭用洗剤	5%以下
容器試験	洗剤	住宅用・家庭用洗剤	各試験(漏水、落下、耐酸性・ 耐アルカリ性、圧縮変形)によ る容器強度を有すること
ジベンゾ[a,h]アントラセン	木材防腐・防虫剤	クレオソート油	10µg/g以下
		防腐・防虫木材	3 µg/g以下
ベンゾ[a]アントラセン	木材防腐・防虫剤	クレオソート油	10µg/g以下
		防腐・防虫木材	3 µg/g以下
ベンゾ[a]ピレン	木材防腐・防虫剤	クレオソート油	10µg/g以下
		防腐・防虫木材	3 µg/g以下

*1 TDBPP:トリス(2,3-ジブロムプロピル)ホスフェイト

*2 BDBPP:ビス(2,3-ジブロムプロピル)ホスフェイト

*3 DTTB:4,6-ジクロル-7-(2,4,5-トリクロロフェノキシ)-2-トリフルオルメチルベンズイミダゾール

【 検査研究課 家庭用品担当 】

感染症発生動向調査委員会報告 5月

《今月のトピックス》

- 伝染性紅斑が2011年以來の流行となっています。
- 梅毒の報告が近年増加しています。
- ロタウイルスによる感染性胃腸炎の報告が増加しています。

全数把握疾患 5月期に報告された全数把握疾患

腸管出血性大腸菌感染症	1件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	2件
A型肝炎	1件	侵襲性肺炎球菌感染症	6件
デング熱	1件	梅毒	3件
レジオネラ症	2件	風しん	2件
アメーバ赤痢	5件		

＜腸管出血性大腸菌感染症＞O26 VT1の報告が1件ありました。感染経路感染地域等不明です。本症は例年夏季にむけて感染者数のピークを迎えるため、今後の注意が必要です。特に抵抗力の弱い乳幼児や高齢者で重症化することがあります。通常、菌は家畜の腸内に存在しますが、新鮮な肉を購入しても表面に菌が付着している可能性があり、生肉を切った包丁やまな板の洗浄・消毒や、焼肉の生肉を取る箸と食べる箸を区別する等の予防対策が重要です。また菌は熱に弱いので、肉は十分に加熱(中心部まで75℃で1分間以上加熱)し、生肉や加熱が不十分な肉を食べないことが大切です。

＜A型肝炎＞1件の報告があり、経口感染が推定されています。

＜デング熱＞1件のデング熱の報告があり、渡航先(マレーシア)での感染が推定されています。

＜レジオネラ症＞肺炎型2件の報告がありました。1件は国内での水系感染が推定(現在調査中)されており、もう1件は感染経路等不明です。

＜アメーバ赤痢＞腸管アメーバ症4件と、腸管及び腸管外アメーバ症(肝膿瘍)1件の報告がありました。腸管アメーバ症の1件は国内での経口感染、もう1件は国内での感染で感染経路等不明、もう1件は中国での感染で感染経路等不明、残るもう1件は感染経路感染地域等不明でした。腸管及び腸管外アメーバ症の1件は経口感染が推定されていますが感染地域等不明でした。

＜後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)＞無症状病原体保有者2件の報告がありました。どちらも国内での感染が推定されており、1件は同性間、もう1件は異性間の性的接触による感染が推定されています。

＜侵襲性肺炎球菌感染症＞70歳代の報告が5件(血清型7型1件、22型2件、他は検査中)、30歳代の報告(咽頭炎で初発し、髄膜炎発症。基礎疾患無し。)が1件(血清型検査中)ありました。すべての報告でワクチン接種歴は確認できませんでした。

＜梅毒＞3件の報告があり、1件は早期顕症Ⅱ期(丘疹性梅毒疹)で、感染経路感染地域等不明でした。残る2件は無症候期で、1件は国内での性的接触、もう1件は感染経路感染地域等不明でした。

[国立感染症研究所の報告](#)によると、梅毒は近年全国的に増加しており、特に男性の25～29歳で多くなっています。また、男性の90%近くが性的接触による感染で、男性の同性間性的接触による感染が増加しています。横浜市でも2011年9件、2012年15件、2013年28件と増加傾向です。感染経路の大部分は、菌を排出している患者との粘膜の接触を伴う性行為や疑似性行為によるもので、オーラルセックスによる感染の危険性があまり知られていないこともあり注意が必要です。また、感染した妊婦の胎盤を通じて胎児に感染すると、先天梅毒の原因になります。

＜風しん＞2件の報告があり、どちらも臨床診断例です。1件は幼児で予防接種歴2回有り、もう1件は10歳代で予防接種歴はありませんでした。

定点把握疾患 平成26年4月21日から平成26年5月25日まで
(平成26年第17週から平成26年第21週まで。ただし、性感染症については平成26年4月分)の横浜市感染症発生動向評価を、
標記委員会において行いましたのでお知らせします。

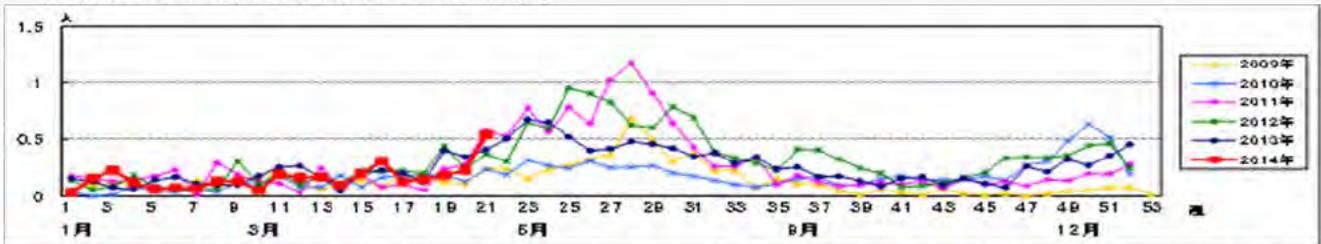
平成26年 週一月日対照表

第17週	4月21日～4月27日
第18週	4月28日～5月4日
第19週	5月5日～5月11日
第20週	5月12日～5月18日
第21週	5月19日～5月25日

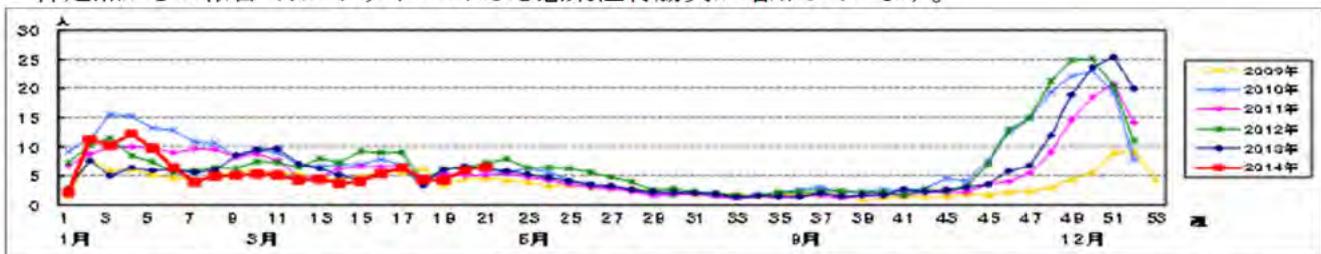
1 患者定点からの情報

市内の患者定点は、小児科定点:92か所、内科定点:60か所、眼科定点:19か所、性感染症定点:27か所、基幹(病院)定点:4か所の計202か所です。なお、小児科定点は、インフルエンザと小児の11感染症を報告します。内科定点はインフルエンザのみを報告します。従ってインフルエンザは、小児科と内科で、計152定点から報告されます。

＜咽頭結膜熱＞第21週は市全体で定点あたり0.54と、やや報告が増加していますが、警報発令基準値(定点あたり3.00)は大きく下回っています。



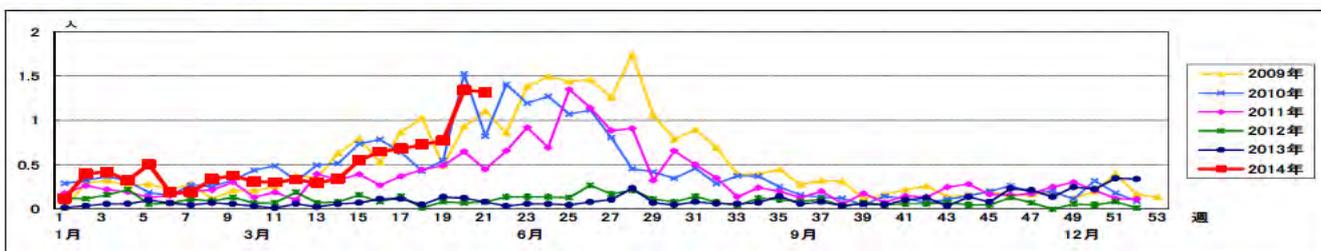
＜感染性胃腸炎＞第21週は市全体で定点あたり6.55と落ち着いており、ほぼ例年同様の報告数です。基幹定点からの報告ではロタウイルスによる感染性胃腸炎が増加しています。



＜伝染性紅斑＞第21週は市全体で定点あたり1.32と、報告数が多くなっており、2011年以来の流行となっています。流行の中心は4～5歳の幼児です。区別では、神奈川区(4.83)、都筑区(4.75)、青葉区(2.86)、緑区(2.75)、瀬谷区(2.25)と5区で警報発令基準値(2.00)を上回っています。伝染性紅斑は典型的なヒトパルボウイルスB19(以下B19)感染症の臨床像です。B19感染症で注意すべきものの一つとして、妊婦感染による胎児の異常(胎児水腫)および流産があります。

◆[伝染性紅斑について](#)(国立感染症研究所)

◆[横浜市感染症臨時情報:伝染性紅斑](#)



＜性感染症＞4月は、性器クラミジア感染症は男性が33件、女性が16件でした。性器ヘルペス感染症は男性が5件、女性が7件です。尖圭コンジローマは男性3件、女性が0件でした。淋菌感染症は男性が14件、女性が0件でした。

＜基幹定点週報＞マイコプラズマ肺炎は第17週0.25の他、第18週～第21週にかけては報告がありませんでした。感染性胃腸炎(ロタウイルス)は第17週0.75、第18週0.50、第19週1.00、第20週1.00、第21週0.33と報告が多くなっています。細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎、クラミジア肺炎の報告はありませんでした。

＜基幹定点月報＞4月はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症4件、薬剤耐性緑膿菌感染症1件の報告がありました。ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、薬剤耐性アシネトバクター感染症の報告はありませんでした。

【 感染症・疫学情報課 】

2 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:3か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計16か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は9か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。また、インフルエンザ定点では特に冬季のインフルエンザ流行時に実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときにのみ行っています。

<ウイルス検査>

5月に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点35件、眼科定点1件、基幹定点6件、定点外医療機関1件でした。

6月9日現在、ウイルス分離7株と各種ウイルス遺伝子22件が検出されています。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果(5月)

主な臨床症状 または診断名 分離・検出ウイルス	上気道炎	下気道炎	インフルエンザ ^{*2}	RS感染症	アデノ感染症 ^{*3}	胃腸炎	手足口病	ヘルパンギーナ	無菌性髄膜炎	流行性角結膜炎	伝染性紅斑	発熱のみ	その他
アデノ NT ^{*1}		1			2 1								
アデノ 2型	1												
アデノ 6型	1												
インフルエンザ B/山形			1										
RS	1	1		1									
ヒューマンメタニューモ	1			1									
ライノ	4	2			1	1	1						
コクサッキー B2型	1												
ヒトボカ	1												
B19											1		
ノロ						5							
合計	3 7	1 3	1 0	0 2	2 2	0 6	0 1	0 0	0 0	0 0	0 1	0 0	0 0

上段:ウイルス分離数/下段:遺伝子検出数

*1 NT:未同定

*2 インフルエンザ(疑い含む)

*3 アデノ感染症(咽頭結膜熱含む)

【 検査研究課 ウイルス担当 】

<細菌検査>

5月の感染性胃腸炎関係の受付は、小児科定点から1件、基幹定点から4件、その他が2件で、腸管出血性大腸菌(O26:H21,VT1)、腸管毒素原性大腸菌(O6:H16,LT)、*Campylobacter jejuni* が検出されました。

その他の感染症は小児科から4件、基幹定点から3件、その他が23件でした。A群溶血性レンサ球菌(Ib 2株、III 1株)は劇症型レンサ球菌でした。

表 感染症発生動向調査における細菌検査結果(5月)

感染性胃腸炎

検査年月 定点の区別 件数	5月			2014年1月～5月		
	小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
	1	4	2	1	46	19
菌種名						
赤痢菌						1
腸管出血性大腸菌			1			3
腸管毒素原性大腸菌		1			1	
サルモネラ					24	
カンピロバクター			1			1
NAGビブリオ						1
不検出	1	3	0	1	21	13

その他の感染症

検査年月 定点の区別 件数	5月			2014年1月～5月		
	小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
	4	3	23	20	17	93
菌種名						
A群溶血性レンサ球菌						2
T1						
T4	1			1		
T6				5		
T11	1			1		
T12				5		
T B3264	1			2		
型別不能				2		
B群溶血性レンサ球菌			5			11
D群溶血性レンサ球菌			2			2
G群溶血性レンサ球菌						3
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌		2			8	
<i>Legionella pneumophila</i>						3
インフルエンザ菌						2
肺炎球菌			7	1		54
結核菌			1			1
百日咳					1	
その他		1			7	1
不検出	1	0	8	3	1	14

*: 定点以外医療機関等(届出疾病の検査依頼)

T(T型別): A群溶血性レンサ球菌の菌体表面のトリプシン耐性T蛋白を用いた型別方法

【 検査研究課 細菌担当 】

衛生研究所WEBページ情報

(アクセス件数・順位 平成26年4、5月分、電子メールによる問い合わせ・追加・更新記事 平成26年5月分)

横浜市衛生研究所ホームページ(衛生研究所WEBページ)は、平成10年3月に開設され、感染症情報、保健情報、食品衛生情報、生活環境衛生情報等を提供しています。

今回は、平成26年4月、5月のアクセス件数、アクセス順位及び平成26年5月の電子メールによる問い合わせ、WEB追加・更新記事について報告します。

なお、アクセス件数については平成26年4月から市民局広報課が提供する、アクセス解析ソフト(Google社製のUrchin)を利用してデータを集計しました。これに伴い、利用状況の集計が1ヶ月短縮されることになり、今回に限り4月、5月分について同時掲載することになりました。

1 利用状況

(1) アクセス件数 (平成26年4月、5月)

平成26年4月の総アクセス数は、121,807件でした。主な内訳は、感染症情報センター72.6%、食品衛生5.4%、保健情報5.3%、検査情報月報2.9%、生活環境衛生1.9%、薬事0.7%でした。また、5月の総アクセス数は、140,365件でした。主な内訳は、感染症情報センター67.6%、食品衛生5.3%、保健情報9.0%、検査情報月報3.4%、生活環境衛生2.5%、薬事0.8%でした。

(2) アクセス順位 (平成26年4月、5月)

表1 平成26年4月 アクセス順位

4月のアクセス順位 (表1)は、第1位が「クロストリジウム-ディフィシル感染症について」、 第2位が「ぎょう虫(蟯虫)症について」、 第3位が「B群レンサ球菌(GBS)感染症について」でした。	順位	タイトル	件数
	1	クロストリジウム-ディフィシル感染症について	7,175
	2	ぎょう虫(蟯虫)症について	5,717
	3	B群レンサ球菌(GBS)感染症について	3,456
	4	衛生研究所トップページ	3,025
	5	調査研究・試験検査機関のあり方に関する報告書	2,912
	6	横浜市インフルエンザ流行情報 19号	2,880
	7	EBウイルスと伝染性単核症について	2,795
	8	サイトメガロウイルス感染症について	2,501
	9	感染症発生状況	2,083
	10	健康な妊娠・出産のために注意したい感染症について	1,934

4月の総アクセス数は、前月に比べ10%ほど減少しました。今月の1位は、「クロストリジウム-デ

ィフィシル感染症について」でした。クロストリジウム-ディフィシル

感染症は、老人や免疫機能が低下している人たちに多く発生します。2位には「ぎょう虫(蟯虫)症について」が入っていますが、学校の新学期が始まったためと考えます。

データ提供: 市民局広報課

「クロストリジウム-ディフィシル感染症について」に関連する情報

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/disease/clostridium1.html>

「ぎょう虫(蟯虫)症について」に関連する情報

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/disease/gyou1.html>

「B群レンサ球菌(GBS)感染症について」に関連する情報

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/disease/gbs1.html>

表2 平成26年5月 アクセス順位

5月のアクセス順位 (表2)は、第1位が「ぎょう虫(蟯虫)症について」、第2位が「クロストリジウム-ディフィシル感染症について」、第3位が「MDMA(通称:エクスタシー)について」でした。	順位	タイトル	件数
	1	ぎょう虫(蟯虫)症について	1,0778
	2	クロストリジウム-ディフィシル感染症について	6,534
	3	MDMA(通称:エクスタシー)について	4,056
	4	B群レンサ球菌(GBS)感染症について	3,892
	5	EBウイルスと伝染性単核症について	2,991
	6	衛生研究所トップページ	2,916
	7	サイトメガロウイルス感染症について	2,592
	8	電子パンフレット「ダニアレルゲンもダイエット」	2,450
5月の総アクセス数は、前月に比べ15%ほど増加しました。今月の3位は、「MDMA(通称:エクスタシー)について」でした。芸能人の薬物使用による報道の影響と考えます。	9	調査研究・試験検査機関のあり方に関する報告書	2,406
	10	アデノウイルス感染症について	2,153

データ提供: 市民局広報課

(3) 電子メールによる問い合わせ (平成26年5月)

平成26年5月の問い合わせは、ありませんでした。

2 追加・更新記事 (平成26年5月)

平成26年5月に追加・更新した主な記事は、10件でした(表3)。

表3 平成26年5月 追加・更新記事

掲載月日	内容	備考
5月 1日	◆お知らせ◆ 感染症法の一部改正 【 届出基準・届出様式 】	更新
5月 7日	ベラルーシのこどもの定期予防接種について	掲載
5月 9日	クロアチア共和国のこどもの定期予防接種について	掲載
5月13日	キプロス共和国のこどもの定期予防接種について	掲載
5月16日	◆パンフレット◆ おたふくかぜはワクチンで予防!	掲載
5月16日	ギリシャ共和国のこどもの定期予防接種について	掲載
5月22日	中東呼吸器症候群(MERS:middle east respiratory syndrome)について	掲載
5月23日	伝染性紅斑の発生状況	掲載
5月26日	トルコのこどもの定期予防接種について	掲載
5月30日	◆パンフレット◆ 熱中症に注意しましょう!	更新

【 感染症・疫学情報課 】